

今後の取り組み

I 青少年健全育成を推進する体制の強化・連携

- 1) 青少年健全育成を推進するため、青少年健全育成市民会議の組織活動の支援を推進します。
- 2) 他の青少年に関する関係機関や団体と連携し情報共有を図るとともに、市全体の健全育成活動を青少年健全育成市民会議と歩調を合わせ推進します。
- 3) 各地域単位では地区青少年健全育成協議会が、地域の実情に合ったきめ細かい活動ができるよう支援し、「地域の子どもは、地域で守る」という意識の定着化を図ります。

具体的な取り組み：青少年健全育成市民会議組織強化支援事業
ネットワーク会議事業

II 街頭指導と相談体制の充実

- 1) 家庭・学校・地域や、青少年指導員、子ども守り隊などと連携を強化し、子どもたちの安全な日常生活の支援を図ります。
- 2) 街頭指導の研修会などを開催し、指導員の指導技術を向上することにより、非行や問題行動の未然防止に努めます。
- 3) 青少年育成センターの相談体制を充実し、悩みを抱える青少年や保護者への適切な相談支援に努めます。また、引きこもりや不登校など社会生活に馴染めない青少年についても総合的な支援を行います。

具体的な取り組み：青少年指導員等研修事業
街頭指導事業
相談、啓発事業
子ども・若者支援事業

Ⅲ 家庭教育の充実

- 1) 市内幼稚園・保育園、小中学校に家庭教育学級の開設を委託し、各单位で保護者が自主的に家庭での生活習慣の大切さや、基本的な生活習慣の確立を学習し、家庭教育力の向上を図ります。また、年1回、各单位の学級が一同に集まり、ひとつのテーマについて学習する合同研修会を開催し、他学級生との交流や情報交換で問題意識を共有することにより、学習レベルが高くなるよう努力します。

具体的な取り組み：家庭教育学級事業

家庭教育学級合同研修会事業

Ⅳ 地域での活動機会と活動の場の充実

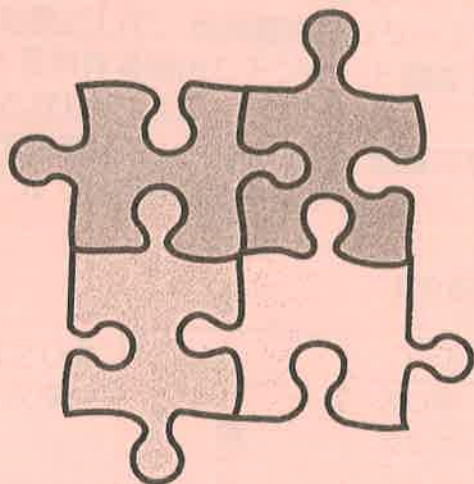
- 1) 子どもたちは自然体験や各種社会体験、異世代交流などの経験が不足しており、子どもたちにあらゆる体験を経験させることが必要となります。市では、子どもの自立性やコミュニケーション能力の向上を目的とし、チャレンジランド杉川を会場に生き生き通学合宿などを開催しています。
- 2) 単位子ども会が一同に集まり、親子でレクリエーションを楽しみながら親子のふれあいや、単位子ども会同士が交流する地域子ども会交流事業を開催します。単位子ども会同士が交流することにより、自己の地域を見つめ直すきっかけを与え、「子どもを地域で育む」意識と体制整備を推進します。

具体的な取り組み：地域子ども会交流事業

青少年交流事業

五泉市生涯学習基本構想・基本計画
(後期計画)

『市民意識調査アンケート結果(抜粋)』



平成24年11月調査

五泉市教育委員会 生涯学習課

平本醫學圖書
(圖書贈送)

平本醫學圖書



本館為推廣醫學圖書起見，特將本館所藏之醫學圖書，...

平本醫學圖書

平本醫學圖書 委員委員會

生涯学習基本構想基本計画(後期基本計画)

市民意識調査アンケート結果の集計及び分析(抜粋)

回収アンケートの内訳

生涯学習課では、第1次五泉市総合計画後期基本計画の策定を受け、五泉市生涯学習基本構想基本計画(後期計画)を策定するため、平成24年11月に、20歳以上の五泉市民を対象として、市民意識アンケート調査を行いました。

調査対象者数 1,000 人を無作為抽出しアンケート調査を行った結果、回収数 387 人・回答率 38.7%となりました。

平成20年に実施した市民意識アンケートでは、調査対象者数 2,000 人を無作為抽出し、回収数 657 人・回答率 32.9%でした。

男女別回収率

男女別の回収率は、平成20年と比較すると男女とも回収率が増加しています。

	回収率		対比
	20年	24年	
男	25.2%	29.1%	15.5%
女	38.1%	44.8%	17.6%
無回答	1.1%	1.0%	-9.1%

年代別回収率

年代別回収率を平成20年と比較すると、全体的に回収率が増加していますが特に70歳以上の市民の増加が顕著となっています。

この5年間で70歳以上の高齢者についても、生涯学習に関心を持っている市民が増加していると推測されます。

	回収率		対比
	20年	24年	
20~29歳	22.5%	26.4%	17.3%
30~39歳	27.9%	30.8%	10.4%
40~49歳	35.3%	35.3%	0%
50~59歳	37.1%	39.8%	7.3%
60~69歳	41.2%	39.1%	-5.1%
70歳以上	27.6%	41.6%	50.7%

生涯学習一般

問 1 『生涯学習という言葉はご存知ですか?』

項目別回答結果

平成20年の回答では「知っている」と答えた市民は57.7%でしたが、平成24年では81.9%と上昇しています。

年代別で比較すると、どの年代も「知っている」と回答

したのは60%を超えており市全体で生涯学習が浸透していることがわかります。

「知らない」と回答した年代で、もっとも多く回答したのは30歳代であり、この年代は生産年齢のなかで、生活全体が就労中心の多忙な年代であると考えられます。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
知っている		57.7%	81.9%
意味はよく分からない		33.3%	
知らない		7.6%	17.8%
無回答		1.4%	0.3%

問 2 『どんな事をしているときにいちばん楽しみや喜びを感じますか?』

項目別回答結果

「趣味」と回答したのは5年毎のアンケート調査でも約2割と安定した割合となっています。これは、自分がやりたい事を見つけたときは、長期にわたり継続できることが推測されます。

今回のアンケート調査で特徴的な結果としては、「家族と一緒に」「仲間といる時」などの回答が15年と比較し、32.5%も減少し、反対に「一人である時」と回答した市民が、15年調査と比較し3倍以上増加していることです。

これは、現在の社会的現象の現れであり、人と人のつながりや他人との関係が煩わしくなり、一人で周囲に気を遣わず好きなことをしていることに、安らぎを感じることを選択した市民が、五泉市でも多くなってきたと考えられます。

もうひとつ特徴的なことは、「スポーツ」と回答した割合が毎回増加していることです。このことについても、現在の社会現象である健康志向が回答結果に現れています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
趣味	21.5%	23.5%	22.0%
家族と一緒に	48.0%	46.9%	32.4%
仲間といる時			
テレビなどを見ている時			
スポーツ	8.1%	8.2%	12.9%
仕事	8.1%	6.8%	9.2%
一人である時	4.4%	4.1%	14.8%
各種学習・講座	3.7%	3.3%	2.3%
地域活動・奉仕活動	2.7%	2.8%	1.6%
家事・育児	2.4%	2.7%	
その他	0.9%	1.4%	3.9%
無回答	0.2%	0.3%	0.8%

問 3『この1年間で生涯学習課や公民館が開催する、スポーツや教養講座に参加したことがありますか？』

項目別回答結果

「ある」と回答したものが15年調査と比較すると1/3程度にまで減少しています。また、「ない」と回答した市民は15年調査と比較して56%も増加しています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
ある	44.0%	47.9%	14.7%
ない	54.4%	51.4%	85.3%
無回答	1.7%	0.6%	0.0%

20年から24年の5年間でこの調査の回答内容が大きく変化しています。

この結果は、今回のアンケート対象個体に原因があることも考えられますが、今までの事業内容や方法を振り返り、確実に原因を追究していかなくてはなりません。

これは、問2の「一人にいる時」の回答数や、「家族と一緒に」「仲間といる時」などの回答数を反映していることも考えられます。

問3を年代別で比較すると、「ない」と回答した年代のうち20歳及び30歳代の回答率が高くなっています。生活が就労中心の年代であり、就労形態も多様になっているため、生活に追われ生涯学習にまで余裕がない状況であると推測されます。

問 4『今後、生涯学習課や公民館が開催する、スポーツや教養講座に参加したいと思いませんか？』

項目別回答結果

「したい」と回答したのが「したくない」と回答した市民を、かろうじて上回っています。

この回答についても20年のアンケート結果と比較し大きく回答内容が変化しています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
したい		82.8%	56.8%
したくない		16.4%	41.1%
無回答		0.8%	2.1%

これも、煩わしい団体行動より個人を重視する、現在の風潮が影響していることも考えられます。

平成20年のアンケートでは、「したい」と回答した職業で、一番数が多かった職業は“会社等の役員”であり、次が“公務員”でした。

また、「したくない」と回答した職業別割合で、一番数が多かった職業は“農林業”であり、次が“会社員・派遣社員”でした。就業人口が多い職業で「したくない」との回答が多かったことが特徴です。

問 5 『スポーツや教養講座に参加した理由は「何のため」でしたか？』

項目別回答結果

「健康・体力づくりのため」との回答が、15年から多くなってきています。やはり近年の健康志向が回答に反映していると考えられます。

また、「芸術・趣味等のため」との回答が20年と比較し若干増加してきました。

15年と比較すると大幅に減少してきていますが、「知識教養を高めるため」との回答は20年とほぼ同じ割合となっており、生涯学習課ではスポーツと教養・芸術のバランスがとれた講座を、企画運営してきたことが推測されます。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
健康・体力づくりのため	20.8%	24.5%	29.3%
生きがいや楽しみのため	40.6%	23.5%	19.8%
友人や仲間づくりのため	24.2%	14.8%	15.5%
知識教養を高めるため	47.8%	11.6%	11.2%
芸術・趣味等のため	30.5%	9.6%	12.1%
資格を取るため	19.5%	4.7%	
家庭生活をよりよくするため	10.4%	4.0%	4.3%
職業又は収入を得るため	18.2%	3.8%	
その他	1.2%	1.5%	
無回答	7.2%	1.4%	

問 5-1 『今後参加したいと思う理由は「何のため」ですか？』

項目別回答結果

項目別に見ていくと「健康・体力づくりのため」との回答が一番多いですが、「知識教養を高めるため」と「芸術・趣味等のため」と回答した数値を合算すると24年は32.1%と「健康・体力づくりのため」を大きく上回っています。

生涯学習講座を経験したり、興味のある市民の趣向がこの回答である程度予想されます。

やはり、今後ともスポーツと教養・芸術のバランスがとれた講座を、企画・実施していくことが重要と考えられます。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
生きがいや楽しみのため		23.7%	17.1%
健康・体力づくりのため		23.4%	22.7%
友人や仲間づくりのため		14.0%	9.2%
知識教養を高めるため		13.0%	14.0%
芸術・趣味等のため		8.6%	18.1%
資格を取るため		3.7%	
家庭生活をよりよくするため		4.8%	
職業又は収入を得るため		3.7%	
その他		0.8%	
無回答		3.9%	

問 6『参加したスポーツや教養講座は「どのような内容」でしたか?』

項目別回答結果

過去にどのようなスポーツや教養講座を受講したのかを調査した結果です。「健康・スポーツ」や「趣味や教養」が20年・24年ともに回答が多く、20年より24年の今回アンケートでも回答率が高くなっています。

また、「子どもの成長発達や教育」という項目では、わずかに回答率が高くなっています。

男女別の回答内容については、「スポーツに関すること」及び「趣味（絵画・音楽・書道・陶芸等）に関すること」が男女とも回答率が高く、「レクリエーション（ヨガ・ダンス）に関すること」は女性の回答率が高くなっています。

男性では「教養（英会話・手話・俳句等）に関すること」及び「文化（史跡・文化財・郷土史等）に関すること」が高い回答率となっていることが特徴です。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
健康・スポーツ		30.2%	41.4%
趣味や教養		15.3%	21.8%
職業上必要な知識技能		10.6%	
高齢化、介護		5.9%	
地域づくり・まちづくり		5.2%	1.1%
情報通信技術		5.0%	3.4%
家庭生活に役立つ技能		4.7%	8.0%
体験活動		4.1%	
子どもの成長発達や教育		3.8%	5.7%
ボランティア活動		2.6%	
子育て支援・家庭教育支援		2.0%	
語学		2.0%	
郷土		2.0%	
人権問題		0.3%	
その他		1.7%	1.1%
無回答		3.6%	12.6%

問 6-1『今後参加したいと思うスポーツや教養講座は「どのような内容」ですか?』

項目別回答結果

今後受講してみたいという講座内容を調査した結果です。

全般的は「健康・スポーツ」及び「趣味や教養」の項目について回答率が高くなっています。

20年と比較して24年で回答が多くなったのは、「家庭生活に役立つ技能」及び「郷土」であり2倍程度の

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
健康・スポーツ		24.5%	28.0%
趣味や教養		13.8%	24.4%
職業上必要な知識技能		6.8%	
高齢化、介護		5.8%	
地域づくり・まちづくり		5.1%	4.5%
情報通信技術		9.2%	9.2%
家庭生活に役立つ技能		7.7%	13.6%
体験活動		4.0%	

上昇となっています。

男女別に比較すると、「趣味（絵画・音楽・書道・陶芸等）に関すること」が男女とも回答が多くなっています。

「スポーツに関すること」については24年のアンケート調査では男性の回答が女性の2倍となりました。

「レクリエーション（ダンス・ヨガ）に関すること」の項目は依然女性の回答が多く、「文化（史跡・文化財・郷土史等）に関すること」については男性の回答が多くなりました。

年代別の比較では、「文化（史跡・文化財・郷土史等）に関すること」の項目で、70歳以上の回答が突出して多く、「スポーツに関すること」の項目では20歳代の回答が多くなりました。30歳代から60歳代でほぼ平均して受講希望が多かった項目については、「趣味（絵画・音楽・書道・陶芸等）に関すること」及び「家庭生活（料理・着付・裁縫・健康等）に関すること」でした。

回答は少ないですが、「地域づくり、まちづくりに関すること」については、20年・24年の調査とも60歳代から70歳以上の回答が多くなっています。

項目	アンケート年		
	15年	20年	24年
子どもの成長発達や教育		3.3%	
ボランティア活動		4.2%	
子育て支援・家庭教育支援		3.1%	4.1%
語学		2.8%	
郷土		2.6%	6.3%
人権問題		0.8%	
その他		1.6%	1.1%
無回答		3.8%	8.6%

問 7『この1年間で参加したスポーツや教養講座は「どのような学習方法」でしたか？』

項目別回答結果

今までの学習方法を調査した結果です。

24年アンケート調査では、「雑誌・新聞等の出版物を利用して」「職場内の研修会や講座」「テレビ・ラジオの教育番組を利用して」など数項目に0%回答がありました。

20年と比較し24年に3倍以上の回答率があったのは「五泉市の生涯学習課の教室・講座・研修会等」に参加するという項目でした。

項目	アンケート年		
	15年	20年	24年
グループ・サークル・団体等	20.0%	22.5%	12.9%
五泉市の生涯学習課の教室・講座・研修会等	10.7%	15.4%	52.9%
雑誌・新聞等の出版物を利用して	11.2%	9.1%	0.0%
県や他市町村が行う講座・学級・研修会等	8.5%	8.9%	7.1%
職場内の研修会や講座	0.0%	8.9%	0.0%
民間のカルチャーセンター・塾・教室講座	3.7%	7.7%	4.3%
テレビ・ラジオの教育番組を利用して	5.5%	6.7%	0.0%
パソコン・インターネットを利用して	0.0%	3.9%	0.0%
通信教育制度を利用して	5.5%	3.4%	1.4%
小・中・高校、大学、各種学校などの公開講座	3.7%	3.2%	4.3%
図書館・博物館等を利用して	9.8%	0.0%	0.0%
個人授業を受けて	6.7%	0.0%	0.0%

「グループ・サークル・団体等に参加する」という項目は、15年20年と増加しましたが24年は20年と比較して約半減しています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
農協・商工会議所・労働団体等が行っている講座	6.2%	0.0%	0.0%
その他	4.6%	3.4%	2.9%
無回答	3.4%	7.1%	14.3%

年代別の比較の特徴としては、「生涯学習課や公民館の講座や研修会などに参加」という項目については全年代に回答がありましたが、それ以外の項目については、20歳代から30歳代の回答は0%でした。

「既存のグループやサークル・団体に参加」という項目では、40歳代の回答が多く見受けられました。

「県や他市町村が行なう講座・学級・研修会等」という項目では、50歳代から60歳代にのみ回答がありました。また、「民間のカルチャーセンター・塾・教室講座」という項目では、60歳代にのみ回答がありました。さらに、「通信教育制度を利用して」という項目では70歳以上にのみ回答がありました。

問 7-1 『今後参加したいというスポーツや教養講座は「どのような方法」ですか?』

項目別回答結果

今後どのような方法で学習したいかとの調査です。

15年から24年まで3回のアンケート調査で回答が一番多い項目は「五泉市の生涯学習の講座・教室・研修会等」でした。

この回答数はアンケート調査年毎に増加しています。

このほかに「県や他市町村が行う講座・学級・研修会等」や「小・中・高校、大学、各種学校などの公開講座」の項目についても24年の調査では増加しています。

年代別で比較すると、アンケート調査の設問のなかで「テレビ・ラジオの教養番組を利用して」との項目以外は、全ての年代で回答がありました。

そのなかで、「五泉市の生涯学習課等の講座・教室・研修会等」の項目では、30歳代から60歳代の回答が多くなりました。

「グループ・サークル・団体等」の項目では20歳代の回答が多くなりました。

また、「テレビ・ラジオの教養番組を利用して」という項目では40歳代の回答は0%でした。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
五泉市の生涯学習課等の講座・教室・研修会等	16.3%	23.0%	29.1%
グループ・サークル・団体等	12.6%	17.1%	13.2%
県や他市町村が行う講座・学級・研修会等	12.6%	9.9%	13.5%
パソコン・インターネットを利用して		9.0%	6.2%
雑誌・新聞等の出版物を利用して	11.0%	7.4%	
民間のカルチャーセンター・塾・教室講座	3.3%	7.4%	8.6%
テレビ・ラジオの教育番組を利用して	9.0%	6.3%	3.0%
通信教育制度を利用して	7.8%	4.3%	3.2%
職場内の研修会や講座		3.9%	
小・中・高校、大学、各種学校など公開講座	3.8%	2.2%	7.3%
図書館、博物館を利用して	11.7%		
個人授業を受けて	2.6%		
農協・商工会議所・労働団体等が行っている講座	5.6%		
その他	0.8%	1.7%	0.8%
無回答	2.9%	7.6%	15.1%

問 8『スポーツや教養講座は「どのような方法で」知りましたか?』

項目別回答結果

今まで、どのような方法で生涯学習情報を得て、講座に参加したのかとの調査です。

24年で一番回答が多かったのは「市の広報紙」でした。

15年と20年で一番回答が高かったのは「グループ・知り合いを通じて(くちコミ)」でしたが、24年には20年の半分程度まで回答が減少しています。

年代別で比較すると、「市の広報紙」については、全年代が回答しています。「チラシ・ポスター・パンフレット」の項目では30歳代を除いた全ての年代が回答しています。「インターネット」の項目に回答したのは40歳代だけとなり、「テレビ・ラジオ」の項目に回答したのは60歳代だけとの結果となりました。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
グループ・知り合いを通じて	39.6%	42.2%	20.2%
市の広報紙	24.2%	41.0%	44.7%
新聞や雑誌	23.6%	16.5%	6.4%
職場や団体の広報紙	16.4%	14.6%	
チラシ・ポスター・パンフレット	14.8%	10.2%	17.0%
自治会・町内会の回覧等	7.9%	8.3%	
テレビ・ラジオ	11.9%	7.6%	1.1%
公民館や図書館	10.7%	6.7%	
インターネット	5.0%	5.7%	1.1%
その他	5.0%	1.9%	4.3%
無回答	5.7%	6.0%	5.3%

問 9『スポーツや教養講座に参加したことがないという理由は何ですか?』

項目別回答結果

生涯学習講座に参加したことがない理由の調査です。

24年のアンケート調査で一番回答が多かった項目は「時間帯があわないから」でした。

また、20年と比較して回答が多くなった項目は「学習や活動の情報が得られないから」となっています。

年代別で比較すると、「時間帯があわないから」との項目では40歳代の回答が多くなっています。

また、「学習や活動の情報が得られないから」との項目では30歳代の回答が多くなっていますが、問8でのアンケート調査結果で「市の広

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
忙しくて時間が取れない	25.1%	17.1%	
きっかけが無いから		13.3%	12.5%
時間帯があわないから	13.3%	12.9%	20.3%
金銭的に余裕が無いから	10.8%	9.4%	5.0%
仲間がいないから	5.6%	6.8%	5.4%
学習や活動の情報が得られないから		6.1%	9.7%
特に必要でないから		5.5%	4.0%
希望する内容のものが無いから	4.0%	5.0%	3.0%
体調が悪いから		4.9%	
介護や子育てのため		3.9%	5.2%
近くに学習・活動の施設が無いから	12.7%	3.9%	2.4%
家族の理解が得られないから	2.8%	1.6%	0.6%
学習や活動が好きでないから		1.0%	
場所が取れないから		0.7%	
教材が入手し難い	3.7%		
内容が面白くない	4.0%		

報紙」以外での回答が0%と
なっていることから、このこ
とが連動したと推測されま
す。

「特に必要でないから」と
の項目で一番回答が多かっ
たのは、70歳以上の年代でし
た。

24年のアンケート調査の項目では、ほぼ全ての項目に全年代が回答しています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
講師や指導者に魅力が無い	4.0%		
施設や設備が不十分	5.6%		
その他	4.3%	0.4%	2.8%
無回答	4.0%	7.5%	29.0%

問 10『あなたは、定期的に運動を行っていますか？』

「定期的に運動している人」の割合は
42.1%、していない56.6%と二極化の傾向
があります。運動していない人を運動に引き
込む努力が必要です。教室、イベントの企画、
運動効果のPRが大切です。

項目別回答結果

24年	
週3回以上	18.9%
週1回以上	16.2%
月2回程度	7.0%
していない	56.6%
無回答	1.3%

問 11『1回の運動時間はどれくらいですか？』

「1時間程度」が47.5%と最も多く、次
いで「30分以内」24.2%、「2時間程度」
22.2%となっています。1回1時間程度の運
動時間が一番適切な時間であると考えられ
ます。集中して効率的に運動できる時間は1
時間と考えられます。教室等の運動時間も1
時間を目安に設定したいと思います。

項目別回答結果

24年	
30分以内	24.2%
1時間程度	47.5%
2時間程度	22.2%
3時間以上	3.0%
無回答	3.0%

問 12『主にどのような運動をしていますか？』

「ウォーキング」31.5%、「ジョギング」
13.7%、「筋力トレーニング」12.1%、「エ
アロビなどのエクササイズ」、「競技スポーツ」
10.5%、「その他」が18.5%となっていま
す。手軽にでき、高齢者でも無理なく続けら
れる「ウォーキング」が31.5%と全体の3
割を越えています。50歳代以上で高い割合
となっております。

項目別回答結果

24年	
ジョギング	13.7%
ウォーキング	31.5%
筋力トレーニング	12.1%
エアロビなどのエクササイズ	10.5%
競技スポーツ	10.5%
柔道などの武道	0.8%

市内のウォーキングマップ等を使った定期的なウォーキングイベントの開催を検討します。

さらには、体協などと連携し競技スポーツの振興も図る必要があります。

24年	
その他	18.5%
無回答	2.4%

問 13『どのようなスポーツ（運動）であれば興味、関心がありますか（普段運動していない人）』

項目別回答結果

「ウォーキング」25.6%、「エアロビなどのエクササイズ」23.8%が高い割合となっております。ウォーキングは、年齢が高くなるほど関心も高くなっています。

エクササイズは、女性の関心が高く、男性は、筋トレ、競技スポーツ、ジョギングなどに関心が高くなっています。教室、イベントなどの企画をする際に、ターゲットを設定した企画も重要であると思います。

24年	
ジョギング	9.7%
ウォーキング	25.6%
筋力トレーニング	17.6%
エアロビなどのエクササイズ	23.8%
競技スポーツ	9.7%
柔道などの武道	0.9%
その他	7.5%
無回答	5.3%

問 14『総合型地域スポーツクラブとはどのようなものか知っていますか？』

項目別回答結果

「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせると17.2%、「聞いたことはあるが内容までは不明」が33.3%で、これらを合わせると50.5%である。ある程度は市民に認知されているが、内容などの周知がまだ不十分であるという結果でした。

今後、広報誌、PR チラシなどで周知を図っていきます。

24年	
よく知っている	1.8%
だいたい知っている	15.4%
聞いたことはあるが内容は不明	33.3%
知らない	47.4%
無回答	2.2%

問 15『総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どのようなスポーツ教室の開催を希望しますか？』

項目別回答結果

「健康増進のための運動教室」が42.6%と飛びぬけて高い数値となっております。

特に50歳代以上の人は、50歳代47.7%、60歳代61.4%、70歳以上44.1%となっており、健康に対する運動効果

24年	
健康増進のための運動教室	42.6%
競技系のスポーツ教室	10.9%
複数の種目が体験できる教室	13.9%

が浸透しているものと思われます。

30歳代では、「親子で参加できる運動教室」が30.1%となっています。スポーツクラブが設立された場合、教室の企画は、ターゲットをある程度しぼって企画し、子どもから高齢者までカバーできる種目設定が重要であると思います。

24年	
レクリエーション的な教室	10.0%
親子で参加できる教室	12.7%
小学生放課後運動教室	6.8%
その他	1.0%
無回答	2.2%

問 16『総合型地域スポーツクラブが設立された場合、会員登録したいと思えますか？』

項目別回答結果

「登録したい」「やりたい教室があれば登録したい」を合わせると64.5%となっており、市民ニーズにあった教室があれば、ある程度の会員数は確保できるものと思われます。

スポーツクラブの運営上、常に市民ニーズを把握し教室の企画をすることが重要です。

24年	
登録したい	5.7%
やりたい教室があれば登録したい	58.8%
なんともいえない	29.4%
登録はしない	3.9%
無回答	2.2%

講座等の経費負担

問 17『スポーツや教養講座を受講する場合の受講料についてどのように考えていますか?』

項目別回答結果

講座を受講するにあたり、受益者負担をどのように考えているかの調査です。

24年のアンケート調査では「全額負担」・「一部負担」・「無料」と3項目に整理しました。その結果、一番回答率が高かったのは「一部負担はやむを得ない」との項目でした。

「無料」との回答についても、20年と比較すると増加しており、今後の検討課題となっています。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
原則として全額負担		9.4%	9.2%
自分に還元するものは自己負担	19.2%		
一部負担はやむを得ない	27.2%	53.7%	73.2%
公共的な内容、市が負担		19.9%	
公的な機関が開催、無料	48.7%	10.8%	15.8%
その他	0.8%	0.6%	
無回答	4.0%	5.5%	1.8%

問 18『スポーツや学習・サークル活動をする時の施設使用料について、どのように考えますか?』

項目別回答結果

生涯学習施設を使用するにあたり、使用料をどのように考えているかの調査です。

「一部負担はやむを得ない」と回答した市民は、20年24年の調査とも6割程度でした。

「原則として全額負担」と回答した市民も20年・24年とも回答率に大きな変化はありませんでした。

今後は、現在使用料が「無料」に減免されている「社会教育団体」について、受益者負担をどのようにするのか検討が必要になってきます。

項 目	アンケート年		
	15年	20年	24年
原則として全額負担		5.5%	7.0%
一部負担はやむを得ない		58.6%	61.0%
公共的な内容、市が負担		15.6%	
公的な機関が開催、無料		13.5%	29.8%
その他		0.3%	
無回答		6.2%	2.2%

問 19『この1年間に、芸術や文化的な催しに出かけたり、鑑賞したことはありますか?』

24年に新しく設置した設問です。

この1年の間に、市民がどのような内容の芸術・文化にどのくらい触れていたのかを調査しました。

美術鑑賞が最も多く、次に映画鑑賞・文化財である史跡・名勝・寺社などに出かけるという回答が全体の6割程度を占めています。

年代別で比較すると、「文化財」「美術」と回答したのは60歳代・70歳以上の割合が多く、「映画」「音楽」と回答したのは20歳代が多くなりました。

「一度も行かなかった」という回答は、1割程度となりました。年代別で比較すると、20歳代の回答が全体の3割と高くなっています。

年代が高くなるほど回答率が低くなっていく傾向が見られます。

項目別回答結果

項 目	24年
文化財(史跡・名勝等)	18.0%
美 術	19.8%
映 画	18.2%
音 楽	13.4%
郷土芸能	3.0%
生活文化	5.2%
演劇・演芸	4.8%
舞 踊	2.0%
古典芸能	1.8%
一度も行かなかった	11.1%
その他	1.4%
無回答	1.4%

問 20『芸術や文化的な催しに出かけたり、鑑賞することについて「行かない」または「行きづらい」理由は何ですか?』

24年に新しく設置した設問です。

どのような理由で、「行かない」または「行きづらい」のかを調査した回答結果です。

「遠くて会場に行くことができない」と「近くに催しが開催されない」という回答が全体の4割近くを占めています。

また「どのような催しがあるかわからない」という回答も多く、情報発信の方法や手段について、今後検討していく必要があります。

年代別で比較すると、「遠くて会場に行くことができない」との回答が多かった年代は、70歳以上の年代でした。

項目別回答結果

項 目	24年
遠くて会場に行くことができない	18.0%
近くに催しが開催されない	19.8%
忙しくて時間がとれない	18.2%
どのような催しがあるかわからない	13.4%
好みの催しがない	3.0%
他にやりたいことがある	5.2%
興味がない	4.8%
その他	2.0%
無回答	1.8%

「忙しくて時間がとれない」との回答が多かった年代は20歳代から50歳代でした。

「どのような催しがあるかわからない」との回答が多かったのは30歳代であり、問3のアンケート結果で学習等の情報取得方法が他の年代と比較して、限られていたことが原因ではないかと推測されます。

また、「興味がない」と回答した割合が多かった年代は20歳代でした。

問 25 『芸術や文化について五泉市が取り組む場合、重要と思われることは何ですか？』

項目別回答結果

24年に新しく設置した設問です。

「文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援」という回答が一番多くなりました。

これにともない、「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」との回答も多くなっています。

約3割の市民が芸術文化活動の支援と人材の確保を望んでいます。

約2割の市民は芸術や文化の鑑賞機会や学習機会の提供や情報発信など、文化や芸術に触れることや、その情報を望んでいます。

また、公園・広場や展示・活動施設の充実といったハード面での必要性も約2割の市民が重要と考えています。

項目別・年代別で特徴的なことは「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」の項目に回答した年代が20歳代と70歳以上に多く見られたことです。

「青少年への芸術や文化活動の振興」を突出して多く選択した年代は20歳代となり、「外国など異なる地域との文化交流の推進」を突出して多く選択した年代は30歳代となりました。

項目	24年
文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援	15.4%
芸術や文化の鑑賞機会の提供	10.2%
芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成	12.1%
史跡や遺跡などを活かした公園や広場の整備充実	7.8%
青少年への芸術や文化活動の振興	9.9%
市や地域振興となる芸術や文化の掘り起こしや育成	4.9%
博物館・ホール等芸術や文化施設の整備充実	8.2%
芸術や文化についての情報発信や提供	6.3%
芸術や文化関係の学習機会の提供	4.7%
初心者への芸術や文化活動の支援	8.5%
芸術や文化活動の練習・学習のための施設整備充実	4.2%
外国など異なる地域との文化交流の推進	2.7%
その他	1.5%
無回答	3.6%

問 26 『五泉市で開催されている芸術や文化の催しに、どの程度参加していますか？』

24年に新しく設置した設問です。

市民が、芸術や文化に関する催しに、どの程度関心があり参加しているのか、代表的な事業について調査してみました。

1) 市展・文化展

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」と回答したのは全体の6割となりました。

年代別で比較すると、70歳以上の市民の52.6%が「ほとんど毎年行く」と回答しています。また年代が若くなるほど回答が減少しています。

【市展・文化展】	24年
ほとんど毎年行く	23.7%
行ったことがある	36.4%
知っているが行ったことがない	21.9%
催しがあるのを知らなかった	10.1%
無回答	7.9%

「行ったことがある」という項目に一番多く回答した年代は40歳代で46.7%でした。この項目では、20歳代でも26.7%の回答がありました。

「知っているが行ったことがない」という項目に回答が多かったのは20歳代から30歳代であり、それぞれ40.0%・39.5%となりました。

20歳代では「催しがあるのを知らなかった」という項目に33.3%の回答がありました。この項目のなかでは突出して多くなっています。

2) 市民音楽祭

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」と回答したのは全体の2割程度となりました。

また、「知っているが行ったことがない」「催しがあるのを知らなかった」と回答したのは全体の6割程度となりました。

【市民音楽祭】	24年
ほとんど毎年行く	3.9%
行ったことがある	18.0%
知っているが行ったことがない	50.0%
催しがあるのを知らなかった	11.8%
無回答	16.2%

「ほとんど毎年行く」と回答したのは50歳代から70歳以上の年代だけでした。

「行ったことがある」との設問では全年代が14.3~23.1%程度の回答をしています。

3) 市民芸能祭

項目別回答結果

市民音楽祭と同程度の回答内容でした。「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」と回答したのは全体の2割程度となりました。

ただし、「ほとんど毎年行く」と回答した年代で20歳代30歳代からの回答はありませんでした。

【市民芸能祭】	24年
ほとんど毎年行く	3.9%
行ったことがある	21.5%
知っているが行ったことがない	48.7%
催しがあるのを知らなかった	10.5%
無回答	15.4%

また、「知っているが行ったことがない」という設問では20歳代から60歳代まで60.0%~46.4%と多くの回答がありました。

「催しがあるのを知らなかった」との項目では20歳代が33.3%の回答となりました。

4) 生涯学習フェスティバル「いづみちゃん楽習フェスタ」

項目別回答結果

比較的新しい事業のため、参加割合や認知度が前段の事業と比較して低くなっています。

年代別で比較すると、60歳代70歳以上が、他の年代より多く「ほとんど毎年行く」と回答しています。

【生涯学習フェスティバル】	24年
ほとんど毎年行く	4.8%
行ったことがある	10.5%
知っているが行ったことがない	42.5%
催しがあるのを知らなかった	25.9%
無回答	16.2%

5) さくらんど吹奏楽のタベ

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」と回答した3.1%の年代は60歳代が多くなりました。

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」という項目のなかで20歳代の回答はありませんでした。

「催しがあるのを知らなかった」との回答割合は市展や音楽祭と同程度に低く、認知度は高い事業となっています。

【さくらんど吹奏楽のタベ】	24年
ほとんど毎年行く	3.1%
行ったことがある	16.2%
知っているが行ったことがない	50.9%
催しがあるのを知らなかった	14.5%
無回答	15.4%

6) ベーゼンドルフピアノコンサート

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」をあわせても3.5%となり、参加割合が少なくなっています。

「催しがあるのを知らなかった」との回答が43.0%となっており、認知度が低くなっています。

この事業は開始してから3年目であり、市民に周知されていないのが原因と考えます。

【ベーゼンドルフコンサート】	24年
ほとんど毎年行く	0.0%
行ったことがある	3.5%
知っているが行ったことがない	35.5%
催しがあるのを知らなかった	43.0%
無回答	18.0%

7) サロンコンサート

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」をあわせても4.8%となり、参加割合が少なくなっています。

「行ったことがある」と回答した4.8%の年代は、50歳代・60歳代・70歳以上となり、若年層の参加はありませんでした。

この事業は年間で2～3回開催され、24年度はチケットが完売しています。比較的規模が小さいコンサートであることが、認知度が低い原因と考えられます。

【サロンコンサート】	24年
ほとんど毎年行く	0.0%
行ったことがある	4.8%
知っているが行ったことがない	31.1%
催しがあるのを知らなかった	45.6%
無回答	18.4%

8) さくらんど落語名人寄席

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」と回答した入場経験者は全体で1割程度となっています。年代別では20歳代を除く全ての年代で回答がありました。

また、「催しがあるのを知らなかった」との回答割合は23.7%と低く、認知度が高い事業となっています。

【さくらんど名人寄席】	24年
ほとんど毎年行く	1.3%
行ったことがある	8.3%
知っているが行ったことがない	50.4%
催しがあるのを知らなかった	23.7%
無回答	16.2%

9) その他で行われる個展やコンサート

項目別回答結果

生涯学習課が行うのではなく、個人のギャラリーや店舗・図書館などを借りて開催される個展やコンサートについての調査です。

参考としてアンケート調査をしてみました。入場経験や認知度ともにやや高い結果となりました。

【その他で行われる個展やコンサート】	24年
ほとんど毎年行く	2.6%
行ったことがある	15.4%
知っているが行ったことがない	28.5%
催しがあるのを知らなかった	32.9%
無回答	20.6%

「ほとんど毎年行く」と回答した年代は、30歳代と60歳代となりました。

「行ったことがある」と回答した年代は全年代となり、50歳代の回答割合が一番高くなりました。

10) 郷土資料館

項目別回答結果

「ほとんど毎年行く」と回答したのは全て60歳代の年代でした。

「行ったことがある」との項目は25.9%となり、市展・文化展の次に高い回答率でした。

郷土資料館では通常展示のほかに、毎年テーマを変えて特別展を開催しており、魅力のあるテーマで開催することで「ほとんど毎年行く」の比率を上げることができると考えます。

【郷土資料館】	24年
ほとんど毎年行く	0.4%
行ったことがある	25.9%
知っているが行ったことがない	31.1%
催しがあるのを知らなかった	21.9%
無回答	20.6%

問 27『あなたは家庭教育を行っていますか?』

※家庭教育：マナーや生活習慣の確立など、子どもに対して家庭で行う教育

項目別回答結果

家庭教育に関する内容の調査です。
 今回の質問事項は20年のアンケート結果をもとに、実際に家庭教育を行っているか調査してみました。
 「重点的に行っている」と回答したのは14.2%と低い割合でした。
 参考として20年のアンケート実施した時の質問は『子どもの成長には家庭教育をどのように思いますか?』という項目で調査しています。

20年	
とても重要だと思う	67.4%
重要だと思う	25.4%
あまり重要だと思わない	0.3%
全く重要だと思わない	0.3%
わからない	3.7%
無回答	2.9%

その集計結果は次のとおりです。

項目別回答結果

20年のアンケート調査では「どのように思うか?」との質問でした。
 結果としては「とても重要だと思う」と回答したのは67.4%と高い数値となっていました。

24年	
重点的に行っている	14.2%
ある程度行っている	39.1%
あまり行っていない	3.1%
行っていない	2.6%
無回答	40.9%

「重要だと思う」の回答も含めると9割以上の市民が重要と考えていました。今回の調査の、「重点的に行っている」と回答した数値と大きな差異があり、実際の行動がおざなりになっていることがわかります。

問 28『家庭で子どもたちに特に重要と思う教育内容はどのようにお考えですか?』

【乳幼児期】

項目別回答結果

20年と比較し24年のアンケート調査で特徴的なのは、「他人への思いやり」の回答が増加し、「社会的マナー」の回答が減少していることです。

また、「自制心」の回答が20年と比較し約3倍になり、「自然体験」は約10倍の回答となりました。

全体的には前回アンケートと

項 目	アンケート年	
	20年	24年
基本的な生活習慣	27.5%	27.4%
他人への思いやり	7.7%	12.6%
社会的マナー	12.8%	2.6%
自然体験	2.5%	14.3%
自主性	3.9%	3.1%
自制心	2.8%	11.9%
自立心	14.7%	

同じく乳幼児期では「基本的な生活習慣」「豊かな情操」が多く選ばれています。

男女別で比較すると、「基本的な生活習慣」は男性が多く回答しており、「豊かな情操」は女性が多く回答しています。

項 目	アンケート年	
	20年	24年
豊かな情操	8.2%	16.7%
道徳感	2.6%	
人間関係の構築	3.5%	2.1%
生活体験	1.6%	5.0%
性教育	2.9%	0.0%
正義感	0.1%	1.0%
職業観	0.3%	0.2%
差別・いじめの防止		1.4%
学習習慣		1.2%
その他・無回答		0.2%

【小学生期】

小学生期は、回答項目に突出して高い回答率があるものはなくなりました。

24年は回答項目に「差別・いじめの防止」「学習習慣」を追加し、設問も整理しました。

この項目について回答があったため既存の項目の回答率が低くなったものがあります。

たとえば、20年は「自主性」「自立心」の合計が10.8%だったものが、24年では5.9%に減少しました。

新しく追加した項目である「学習習慣」については、12.3%という比較的高い回答率になりました。

男女別では「基本的な生活習慣」「自然体験」「豊かな情操」「性教育」は女性の回答割合が多く、「他人への思いやり」「正義感」

「差別・いじめの防止」は男性の回答割合が多くなりました。

項目別回答結果

項 目	アンケート年	
	20年	24年
基本的な生活習慣	14.3%	15.9%
他人への思いやり	12.0%	10.6%
社会的マナー	5.9%	8.7%
自然体験	12.0%	8.0%
自主性	6.9%	5.9%
自制心	6.5%	5.9%
自立心	3.9%	
豊かな情操	6.9%	5.4%
道徳感	6.2%	
人間関係の構築	4.9%	3.5%
生活体験	11.3%	9.7%
性教育	2.5%	2.7%
正義感	3.0%	3.8%
職業観	1.0%	1.2%
差別・いじめの防止		6.5%
学習習慣		12.3%
その他・無回答	9.9%	0.0%

【中学生期】

中学生期は、回答項目に突出して高い回答率があるものはなくなりました。

24年は回答項目に「差別・いじめの防止」「学習習慣」を追加し、設問も整理しました。

この項目について回答があったため既存の項目の回答率が低くなったものがあります。

20年24年とも同じ「基本的な生活習慣」設問では、回答率が2倍に増えています。

また、「自制心」については、24年の回答率が半分に減少しました。

新しく追加した項目である「学習習慣」については9.4%、「差別・いじめの防止」については7.7%と、比較的高い回答率になりました。

男女別では「学習習慣」「自主性・自立心」「人間関係の構築」は女性の回答割合が多く、「他人への思いやり」「自制心」「豊かな情操」は男性の回答割合が多くなりました。

項目別回答結果

項 目	アンケート年	
	20年	24年
基本的な生活習慣	5.9%	10.3%
他人への思いやり	10.5%	7.7%
社会的マナー	9.4%	11.4%
自然体験	4.7%	3.8%
自主性	9.9%	11.7%
自制心	8.9%	4.8%
自立心	7.9%	
豊かな情操	4.2%	3.8%
道徳感	8.7%	
人間関係の構築	8.1%	8.8%
生活体験	3.4%	4.8%
性教育	7.2%	5.3%
正義感	4.2%	5.3%
職業観	3.5%	5.2%
差別・いじめの防止		7.7%
学習習慣		9.4%
その他・無回答	3.3%	0.2%

【高校生期】

高校生期は、回答項目に突出して高い回答率や、特徴的な回答の偏差はなくなりました。

24年は回答項目に「差別・いじめの防止」「学習習慣」を追加し、設問も整理しました。

この項目について回答があったため既存の項目の回答率が低くなったものがあります。

20年24年とも同じ「基本的な生活習慣」設問では、回答率が2倍に増えています。

「自制心」については、前回の1/3になりました。

男女別では「人間関係の構築」

項目別回答結果

項 目	アンケート年	
	20年	24年
基本的な生活習慣	5.5%	10.9%
他人への思いやり	8.2%	6.9%
社会的マナー	14.4%	13.4%
自然体験	2.2%	0.6%
自主性	7.0%	13.4%
自制心	7.2%	2.5%
自立心	11.3%	
豊かな情操	3.4%	2.1%
道徳感	7.8%	
人間関係の構築	8.3%	10.3%
生活体験	1.9%	3.6%
性教育	5.6%	6.5%

「差別・いじめの防止」は女性の回答割合が多く、「他人への思いやり」「基本的な生活習慣」「職業観」は男性の回答割合が多くなりました。

項 目	アンケート年	
	20年	24年
正義感	4.7%	4.2%
職業観	8.1%	12.6%
差別・いじめの防止		7.1%
学習習慣		5.5%
その他・無回答	4.3%	0.0%

【各年代比較】

年代期別回答結果

この表は、24年のアンケートを家庭で子どもたちに特に重要と思われる項目を、各年代でまとめたものです。

乳幼児期・小学生期に回答した項目で一番多かったのは「基本的な生活習慣」でした。

中学生期・高校生期に回答した項目で一番多かったのは「自主性」でした。

「人間関係の構築」は中学生期から、また「社会的マナー」は小学生期から急激に増加しています。

「自制心」について、回答割合はどの年代も低くなったことも判ります。

項 目	年代期			
	乳幼児	小学生	中学生	高校生
基本的な生活習慣	27.4%	15.9%	10.3%	10.9%
他人への思いやり	12.6%	10.6%	7.7%	6.9%
社会的マナー	2.6%	8.7%	11.4%	13.4%
自然体験	14.3%	8.0%	3.8%	0.6%
自主性	3.1%	5.9%	11.7%	13.4%
自制心	11.9%	5.9%	4.8%	2.5%
自立心				
豊かな情操	16.7%	5.4%	3.8%	2.1%
道徳感				
人間関係の構築	2.1%	3.5%	8.8%	10.3%
生活体験	5.0%	9.7%	4.8%	3.6%
性教育	0.0%	2.7%	5.3%	6.5%
正義感	1.0%	3.8%	5.3%	4.2%
職業観	0.2%	1.2%	5.2%	12.6%
差別・いじめの防止	1.4%	6.5%	7.7%	7.1%
学習習慣	1.2%	12.3%	9.4%	5.5%
その他・無回答	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%

問 29『子どもを育てるにあたって、親として特に大切な内容はどのようなことですか？』

【乳幼児期】

項目別回答結果

24年は回答項目に「適応力」「性教育」「差別・いじめの防止」を追加し、「学習の必要はない」を削除しました。

項 目	アンケート年	
	20年	24年
子どものコミュニケーション	19.7%	24.0%
基本的な生活習慣の定着	24.1%	23.3%

「子とのコミュニケーション」は前回調査と比較しやや増加しています。

また「夫婦に関する事について」「親としての生き方」についても回答割合が増加しました。

「子の自立心の育て方」についてはやや減少しています。

少子化により子どもを大切に育てたいという考え方がより強くなっているようです。

男女別に比較すると「夫婦に関する事について」「家族に関する事について」「社会的モラル」と回答したのは男性が多く、「子の自立心の育て方」「子とのコミュニケーション」「子の発達段階について」は女性の回答が多かったです。

項 目	アンケート年	
	20年	24年
社会的モラル	2.8%	3.6%
子の自立心の育て方	9.6%	5.1%
家族に関する事について	4.0%	4.7%
忍耐力	2.3%	2.9%
親としての生き方について	3.9%	5.6%
子の発達段階について	10.0%	10.0%
自然体験の充実	5.8%	6.4%
虐待について	4.0%	3.3%
夫婦に関する事について	1.6%	3.8%
発達障害について	3.6%	2.9%
適応力		2.0%
性教育		0.2%
差別・いじめの防止		1.8%
学習の必要はない	0.1%	
その他・無回答	8.5%	0.4%

【小学生期】

24年は回答項目に「適応力」「性教育」「差別・いじめの防止」を追加し、「学習の必要はない」を削除しました。

20年と同じ項目で、24年に回答割合が増加したのは「社会的モラル」「親としての生き方について」「夫婦に関する事について」の3項目でした。

幼児期に多く回答された「子とのコミュニケーション」が小学生期には減少しています。

また、「子の自立心の育て方」も減少しているのも心配されます。

新しく追加した「差別・いじめの防止」についてはある程度の回答がありました。

男女別回答で大きく差があったのは、「社会的モラル」「子の

項目別回答結果

項 目	アンケート年	
	20年	24年
子とのコミュニケーション	14.5%	10.5%
基本的な生活習慣の定着	18.2%	16.5%
社会的モラル	7.5%	8.5%
子の自立心の育て方	14.3%	9.2%
家族に関する事について	7.5%	6.8%
忍耐力	6.6%	5.7%
親としての生き方について	4.5%	6.6%
子の発達段階について	5.8%	5.5%
自然体験の充実	8.8%	7.7%
虐待について	3.2%	3.4%
夫婦に関する事について	2.1%	3.5%
発達障害について	2.4%	3.4%
適応力		4.0%
性教育		2.0%
差別・いじめの防止		6.2%
学習の必要はない	0.3%	
その他・無回答	4.2%	0.5%